

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに。

# 福祉くるべ



ここで、咲く。

特集「多様な法人連携による共同・共有化のチャレンジ」  
— SW-MaaSの取り組み —

2022  
**10**  
October

ふくしDXをはじめよう

活動レポート

写真レポート

〔編集・発行〕 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 令和4年10月1日発行

この広報誌は一部共同基金の助成金により発行されています。

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。  
自宅での検温、来館時にはマスクの着用をお願いいたします。

2022  
**10**

介護予防のための

## 元気はつらつ体操教室

黒部市福祉センター  
TEL.(0765)54-1082

★新規参加者随時受付中

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4 フレイル予防 講座	5 体操	6 ヒートショックについて くすりの話	7	8
9	10 スポーツの日	11 自力整体	12 自力整体	13 自力整体	14 ヒートショックについて くすりの話	15
16	17	18	19 ヒートショックについて くすりの話	20 脳トレ	21 自力整体	22
23	24	25 ヒートショックについて くすりの話	26 体操	27 音楽療法	28 音楽療法	29
30	31	11/1 音楽療法	2 音楽療法	3 文化の日	4	5

フレイル予防講座

明治安田生命

音楽療法

岡島 聡子 先生

自力整体

稲田 清美 先生

脳トレ

くろべ脳トレクラブ

ヒートショックについて

くすりの話

沓掛 真彦 先生

体操

小森 亜希子 先生

■ は休館日

時間/10:00~11:00

対象/65歳以上の方

★令和4年4月より、生き生き倶楽部の予定は広報くろべにて掲載しております。参加費/300円(入館料のみ)

介護予防の



知識

### 「今日行くところがある」 って素晴らしい

「出かける」となると、いつもより【1日の時間の配分】を考えます。

オシャレして、気持ちも【しゃっきり】します。これも、介護予防・認知症予防につながります。

出かけて、元気はつらつ体操教室で楽しく語りませんか？マスクをして感染対策をしっかりして、ぜひ出かけてみましょう！お待ちしております。

今月の表紙



日陰の中にあるレンガの壁に、ひっそりと咲いている黄色い花。こんなところに花が咲くのか、と思ってしまいますが、環境や場所のせいにせず咲く花は美しいです。私たちも、何かのせいにせず、美しくいたいものです。

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 **黒部市社会福祉協議会**

<http://www.kurobesw.com/>



本所 黒部市福祉センター内

〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797  
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター) Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

宇奈月支所・黒部市東部地域包括支援センター 黒部市ふれあい福祉センター内  
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111 TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533  
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp

私たちは5GOALS for 黒部を推進しています



ちよこつ情報 [黒部市の人口] 40,233人 [65歳以上の人口] 12,933人 高齢化率 32.2% R4.8.31 現在



# 「多様な法人連携による共同・共有化のチャレンジ」 — SW - Maasの取り組み —

黒部市社会福祉協議会（以下、市社協という）では、地域福祉分野でのICT利活用の調査研究に取り組んでいます。これからの福祉において、限られた人材や資源を最大限に活用しながらサービスの質を上げていくには、上手くICTを活用した事業や体制を図ることが必要です。今回はその取り組みの一つ、福祉版移動シェアサービス（SW・Maas）※1について紹介します。

## 福祉版 移動シェアサービスの開発

昨年からは一般財団法人トヨタモビリティ基金の助成を受け、黒部市全体で福祉にかかる移動（送迎）の実態調査や、将来的な車両の共有化や一元管理に向けて調査研究を行ってきました。また、移動をサービスとして使うことのできるSW・Maasの開発も進めてきました。

実態調査では、市内の福祉施設において1年間で移動（送迎）で使っている車両は約210台で、そこにかかる総費用は約2億2千万円であることがわかりました。またほとんどの事業



3法人で共同運行しているバス

所で介護職員が運転業務を担っており、大型車両を運転することへの負担や不安、介護業務以外に多くの時間を割いていることもわかってきました。

調査結果を基に、車両をリース、共同管理もしくは業務委託する方法はないか、車両に限らず忙しい時間帯には職員を派遣し合うことはできないかなど様々な改善点やアイデアが出てきました。

そして、一台の車両を3法人で乗り合います。実験では、黒部市福祉センターの定期バス運行、社会福祉法人くろべ福祉会の障がい者が就労先へ移動、さらに、社会福祉法人黒部笑福学園のケアハウスに入居する高齢者の外出支援として活用し、障がい者と高齢者が乗り合います。このメリットや課題、安全性、各法人の負担軽減につながるかなどを検証しました。

その結果、一台の車両で送迎できる人数は1.73倍、走行距離は20%も削減できることがわかりました。今年5月からは平日毎日試験運行しています。

## 連携するおもしろさを実感

くろべ福祉会の永井出（ながい いずる）理事長は、「共同運行になってからは運転の負担感がなくなって気持ち became 楽になったと職員から

聞いています。車両が1台空いたことで他の職員が自由に使える車も確保できるようになりました」と話します。

また、黒部笑福学園の吉田三津子（よしだ みつこ）施設長は「ケアハウスの玄関前にバスが停まることで『福祉センターの体操教室に行ってみよう』と思われるようになった方もおられます。またご家族が急に受診に付き添えなくなったときに利用することもできるので、毎日運行していることで入居者の安心感と活動意欲の向上につながってきていると思います」と



黒部笑福学園 吉田施設長



話します。

共同運行が良いきっかけとなって両法人の関係は一層強くなりました。黒部笑福学園では、実証実験を始めた頃からくろべ福祉会に「デイサービスの掃除とケアハウス入居者の誕生日プレゼントの刺繍を依頼。「顔の見える関係ができて」と困ったときに助けてと言っているので心強いです」と永井さんは話します。

## 広域的な連携とDX推進の中核を担う

今年4月には市社協から派生した「一般社団法人SMART（スマート）ふくしラボ」が立ち上がりました。この法人は、市社協だけでは取り組めない広域的な活動と調査研究機能の



くろべ福祉会 永井理事長

独立を図り、連携の枠組みと挑戦を民間企業と共に進めていくために活動しています。また、SW・MaaSの開発と福祉分野のデジタル化やDX※2推進を加速させるための中核を担います。そして、福祉業界が働きやすく魅力ある職場となって人材不足が改善すること、利用者や家族にとってもよりよい福祉サービスを受けられるまちづくりを目指しています。

## 移動シェアサービスと食料支援にも活かす

7月には福祉分野における食料支援ネットワークの構築に向けてワークショップを開催。食料を提供する企業・団体・個人と食料を受け取る要支援者・施設などの両者をつなぐ支援活動として、フードバンク、フードドライブ、フードパントリーなどのしくみがあります。これらの活動で今課題となっているのが、食料を運ぶ作業と食料の管理、困っている人とのマッチングです。それを解決するために、福祉事業所の車両を物の移動にも活用した地域貢献につながる配送手段の確保と組織の確立を検討しています。

市社協地域福祉課の浜松一美（はままつかずみ）主幹は、「生活に困っている方が相談に来られたときに、フードドライブでいただいた食料が役立ちました。しかし、行き渡らなかつ



食料が欲しい人と欲しい物の見える化について話し合い

## 良いものは広げ、失敗は次に活かす

これらの取り組みでは、仮説を立てて効果と数値で表せるよう目標設定をしています。すぐに効果が見えない事業に関しても3年間という枠組みで企業と連携協定を結び、しっかりと評価体制を取っています。そして良いものは取り入れてより多くの人たちに広げていき、上手くいかなかったものは事例として今後に活かすことが大切だと考えています。

デジタルの活用は一つの手段です。デジタルと人の力、人と人とのつながりを組み合わせるいろいろな切り口で「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を推進していきます。

### ※1 SW・MaaS

（ソーシャル・ウェルフェア・モビリティエズアサービスの略）  
社会福祉が持つ移動資源を共有するしくみ。複数の交通機関のサービスを一つのサービスとして結び付け、人々の移動を大きく変える概念を指す。

### ※2 DX

（デジタルトランスフォーメーションの略）  
デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。



支援の流れと役割分担を考え発表

ループは、黒部に限らずつながりの輪が生まれ、みんなが笑顔になって、心が和むという意味を込めて「WaWaWa（輪・笑・和）みんなが笑顔になるネットワーク」という名称を考案。合同会社HUGKUMI（はぐくみ）の長井一浩（ながいかずひろ）さんは、「ICTの力で今だけ在庫があつて、どこで何が必要とされているのか、みんなが見れるようになれば寄付するタイミングや受け取りに行くタイミングがわかってロスが減る。さらに、MaaSの力で必要としている場所に運ぶことができる。食の困りごとを解決できたからと言って、本人の困りごとを根本的に解決したことはない。困っている人が安心して相談できるようにまずは食の支援。そこから本当に困っていることを見つけ出し、それをデータベースとして見える形で溜めていくと、後に根拠として政策や計画



8月28日には食料支援を試験的に実施



## 黒部市福祉センターのお知らせ

休憩時間/9:30~16:00 入浴/10:30~15:30  
※休憩時間、入浴時間が短縮になっております。

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となる場合がございますので、ご了承ください。

## 10月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、10月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日  
(3日・10日・17日・24日・31日)

## 11月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、11月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日(7日・14日・21日・28日)  
祝日の翌日のため4日・24日は休館日です。

催し物と休館日のご案内

今月のクラブ

## ポールウォーキング

14日(金) 13:30~15:00

場所:黒部市コミュニティセンター(現地集合)  
住所:黒部市生地中區361

28日(金) 13:30~15:00

場所:大布施公民館(現地集合)



誕生日のお祝いに福祉センターの入浴券はいかがですか?  
11枚綴り・・・3,000円

## 写真レポート



## 黒部市災害VC運営支援の協定締結

8月23日(火) / 黒部市役所

黒部市と黒部ライオンズクラブ、黒部市社会福祉協議会は、災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定を締結。

市と社協が災害ボランティアセンターを開設した際に、ライオンズクラブは可能な限り運営スタッフとして協力、資材を提供し、平時から情報交換を行います。

## 今月の相談日

### 弁護士と法律相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)

10月18日(火) 13:30~15:30 / 予約受付10月3日より※先着4名

相談内容問わず、年度につき

1人3回までのご利用とさせていただきます。

### 富山県東部生活自立支援センター

#### 生活自立支援相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)

10月3日(月) 10:00~11:30

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、相談員の変更や中止となる場合がございますので、ご了承ください。

## お知らせ



## 「ふくしDXをはじめよう」キックオフミーティング

「第1回ふくしDXフォーラム」(仮称)を開催するにあたり、何を学び、何を不得場をつくっていくかを、福祉現場の人とデジタルやDXのツールを開発、提供する企業とともに検討していきます。DXとは何か、その必要性について学ぶとともに、これからのDX推進に必要なことなどをみんなで議論して、今後の「ふくしDXフォーラム」のあり方を探っていきます。

場所 黒部市国際文化センターコラーレ マルチホール

申込方法 福祉分野のデジタル化及びDXに興味関心がある方はQRコードよりお申込みください。

申込・お問合せ 黒部市社会福祉協議会

電話 (0765)54-1082または

事務局 一般社団法人SMARTふくしラボ

電話 (090)-5754-3888

メール smartfukushilabo@kurobesw.jp

申込みはこちら



※この事業は、富山県小規模法人のネットワーク化による協働推進事業補助金を活用しています。

## 活動レポート | 8月1日(月)黒部市福祉センター

### 赤い羽根の募金箱を作って寄付に貢献

市内の小学生が参加して、赤い羽根の募金箱を作ろう教室を開催しました。赤い羽根共同募金は「顔が見える関係づくり」をキーワードに、自分のまちを良くするしくみであることを学び、黒部市老人クラブ連合会の高橋幸子さんから、「昨年はカローリング競技の習得会や小学生と一緒に川魚のつかみ取りなどができて元気をもらいました。これからも健康で明るく元気に暮らせる活動をしていきたいです」と活動紹介がありました。

募金箱づくりでは、絵の具や好きな飾りを使ってオリジナルの作品が完成。できあがった募金箱は市内施設に設置する予定です。

